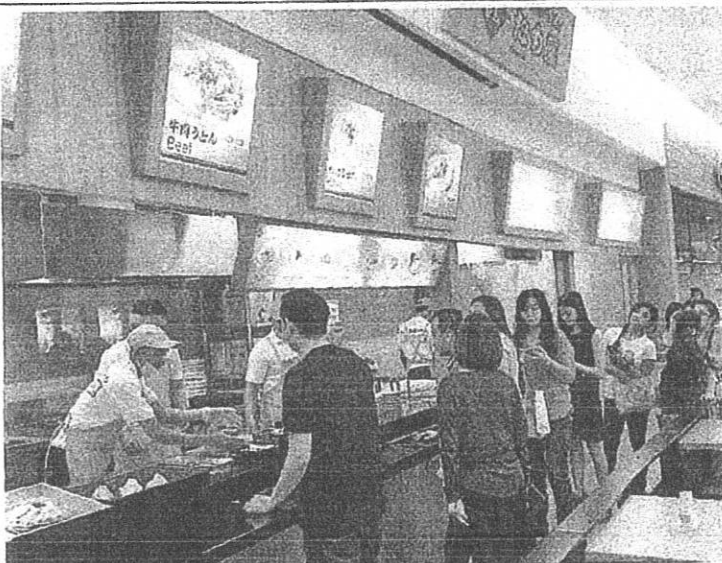


# たも屋 インドネシア進出

首都に1号店 本場讃岐うどん提供  
台湾、ベトナムでも展開へ

讃岐うどんの本場・香川県で人気のうどん専門店「たも屋」(高松市)が28日、インドネシア・北ジャカルタの大型ショッピング



インドネシアにオープンした讃岐うどんの専門店。初日から大勢の客が訪れた(たも屋提供)

モール「エンポリウム・プルイットモール」にインドネシアで初めてとなるフランチャイズ店をオープンした。シンガポールに続く海外進出で、素材の小麦粉とだし、職人による手打ち製法を武器に、アジアへの出店攻勢をかける。

今回の出店は同店のアジア、北米地域のエリア本部「ジャパン・フード・カルチャー」(シンガポール)がアジアの現地パートナーとフランチャイズ契約を結んだことで、アジアでの「進化」が加速した。インドネシア進出の1号

店となった「エンポリウム・プルイットモール店」は約150席。香川県伊吹島産のいりこを使っただしを輸送し、小麦粉はインドネシア産を使用。メニューは定番のかけ、ぶっかけなどのうどんメニュー約10種類のほか、オリジナルの照り焼きチキン、スパイシーチキンを用意。プロッコリーのかき揚げやヤングコーンの天ぷらなどもある。

同店スタッフは「讃岐うどんの魅力ともいえるセルフ方式も導入しており、本場の味をインドネシアでも楽しめるようにした」と話している。

四国をはじめとして日本国内でチェーン展開を進める「たも屋」。海外への進出はシンガポールでの3店舗に続き、今回のインドネシアで4店舗目。来年3月までに台湾など10店舗、平成29年までにベトナムを含めてアジアで70店舗体制を構築する計画だ。